



ふたたび、^{からだ}体をおこし、
^{ぶく}服をきがえ、^{しょくじ}食事をとり、
 あるき、はたらき、
スポーツを
^{たの}**楽しむ**
^{じんせい}**人生を!**

パラリンピックの始まりは、 ^{かはんしん}下半身まひをおった ^{かんじゃ}患者のリハビリでした。



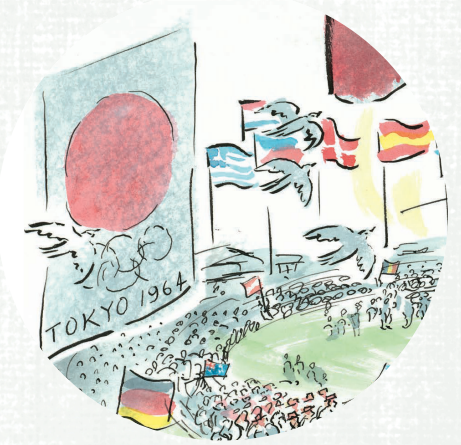
グットマンは医師として、下半身まひの患者の治療をするうち、患者には生きる希望も必要だときづきます。



車いすにのって患者のゲームに参加したことをきっかけに、スポーツを元にした新しいリハビリ計画を作りました。



病院で行われていた、障がい者スポーツの大会が発展し、1960年に第1回パラリンピック大会となりました。



1964年に東京で開催されたパラリンピックでは、障がい者スポーツが社会にあたえる力が改めて見なおされました。



くわしくはこちらの本で
**『パラリンピックは世界をかえる
 ルートヴィヒ・グットマンの物語』**
 ローリー・アレクサンダー 作/アラン・ドラモンド 絵/千葉茂樹 訳
 NDC 283/27×19cm/112ページ

パラリンピック開催に尽力した医師
ルートヴィヒ・グットマン
 (1899~1980年)
 ドイツにユダヤ人として生まれる。ナチスの迫害を受けてイギリスに亡命してからは、せきずいを損傷し、体を起こせなくなった患者の治療につとめた。



Illustrations © Allan Drummond 2020